

保冷剤生産などの三重化学工業

作業用手袋や保冷剤の生産などで約60年間蓄積した技術を活かし、医療、介護分野で業績を上げていく。為替や消費意欲の低下、変化柔軟に対応する「しなやかな強さを持つ」がコンセプト。中에서도ヒット作は「昨(38)のヒット」。「社会」年に熱中症対策で発売し、買収しながら、社員は「幸福と豊かさを図り、三日月形を首や脇、太も

三重化学工業
松阪市に本社工場を構える。1956年11月、山川大輔社長の祖父・山川善高さんが当時の久居市(現在の津市)で創業し、その後、移転した。従業員数45人。作業用手袋、保冷剤、保冷具、医療機器などを製造販売している。現社長が4代目。昨年の年商は18億5000万円。



変化に柔軟に対応

たい」と力説する。近年、注力しているのがシエルで患部を覆ってケアする「冷覺」「温覺」具。整形外科や介護施設

もにフィットし、体を急冷できるのが特徴。急患や病院、学校などの公共施設で冷却保存されるアライメンツ、シートをつなぎ合わせた、指一本でも、背中全体でも冷やすことができ、熱中症患者への緊急

のほか、「ホットタン」(Hot Tan)など温めるタイプのものもある。「部位や症状に応じて選ぶことができ」なでりハ

などで痛みや関節異常の緩和、血行改善を促すも

藤田保健衛生大病院看護部との産学連携が生んだ製品もあり、「医療現場の生の声を反映している」と強調する。

ビリの現場で人気が。また、「時流をとらえて秀逸な知恵を出す」(山川社長) 研究開発陣が自慢が「作業用手袋」(5種) は丈夫で「長持ち」が重宝されたが、消費者の関心が使いやすさ「ソフトさ」に向くと「それにいち早く対応。ひじを守る快適グッズや女性用のSサイズもそろえた。



「シエル」を手に新分野への進出に意欲をみせる三重化学工業の山川大輔社長(松阪市大町で

高度成長期の1966年に、ケーキ用などで三二サイズの保冷剤を発売した同社。しなやかこそが伝統だ。

【橋本明】
随時掲載